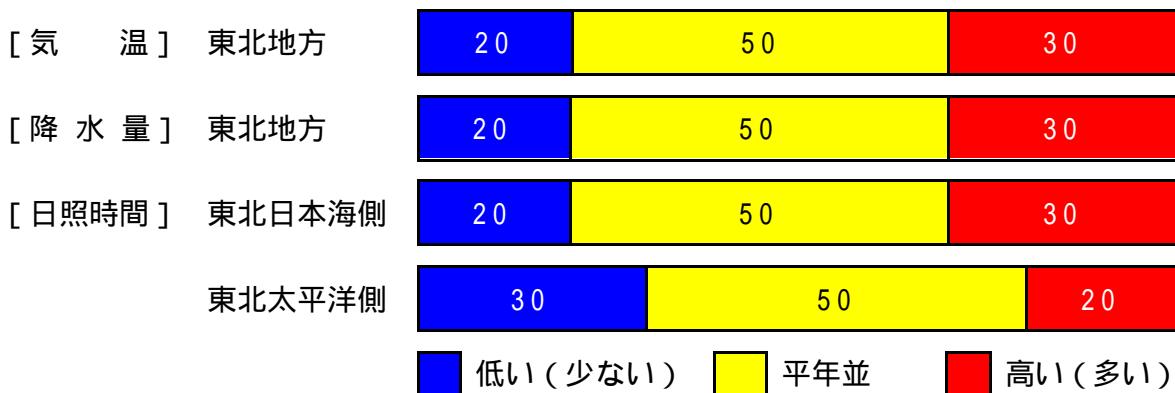


東北地方 1か月予報の解説（予報期間：4月7日～5月6日）

平成13年4月6日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「高い」で、その確率は30%です。「低い」の可能性は20%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう1か月

東北地方は、低気圧と高気圧が交互に通り、天気はおおむね周期的に変化するでしょう。
平均気温は平年並でしょう。

向こう28日間の晴れ日数：東北地方で約16日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… (4月7日～4月13日) 7日と期間の終わりに気圧の谷の影響で天気がくずれるでしょう。その他の日は高気圧に覆われ晴れる見込みです。

平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数：東北地方で約4日

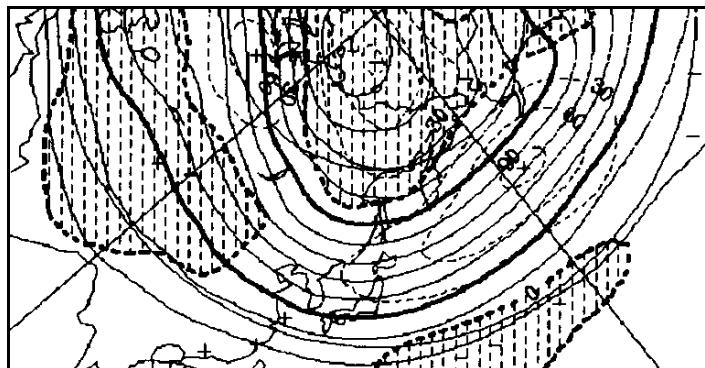
2週目…………… (4月14日～4月20日) 短い周期で気圧の谷が通り、天気は周期的に変化するでしょう。低気圧の通過後は一時的に寒気の入る日があるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北地方で約4日

3~4週目………
 (4月21日~5月4日) 低気圧と高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。
 平均気温は平年並でしょう。
 平年の晴れ日数：東北地方で約8日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



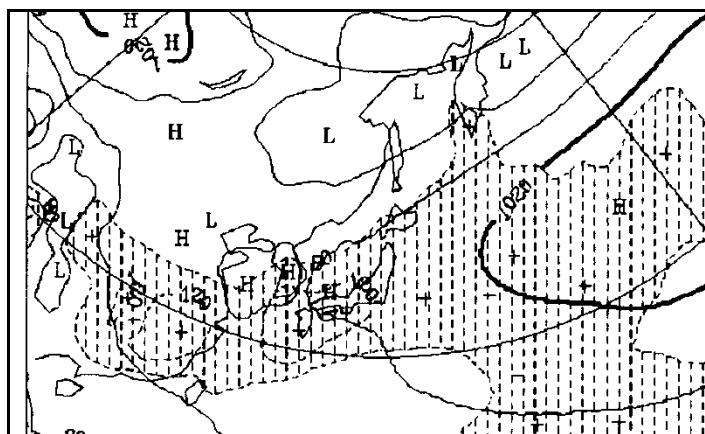
月平均の 500hPa 高度・偏差
 (等高度線：60m 每、偏差：30m 每、陰影部：負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、極付近に寒気が集まり、日本付近は正偏差に覆われる。

日本付近の偏西風の流れは東西流が卓越しており、期間を通して天気は周期変化が基調となる。

週別（図略）では、1週目は日本の東海上にある高気圧の勢力が強く、気温が上がる見込み。2週目は日本付近の谷がやや深まり、低気圧や前線が短い周期で通過する。3~4週目は東西流型で周期変化。

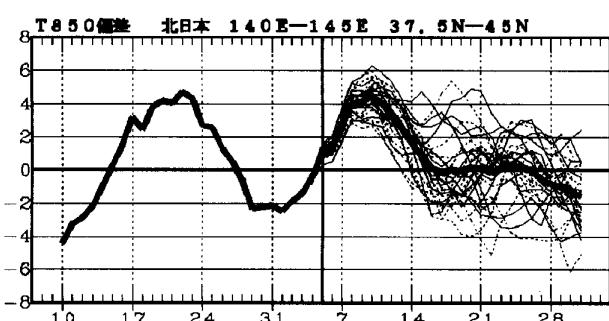


月平均の地上気圧と降水量
 (等圧線：4hPa 每、降水量：40mm 每、陰影部：80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本の東海上にある高気圧が西に広がり、日本付近は高圧部となっている。また、日本付近は広く降水域に覆われるが、まとまった降水域は西日本にある。

週別（図略）では、1週目に東海上にある高気圧の勢力が強まり、北海道～東北地方まで覆われる。2週目以降、高気圧の勢力は弱まり、弱い降水域が日本付近にかかる。まとまった降水域は3~4週目に本州の南岸沿いにみられる。



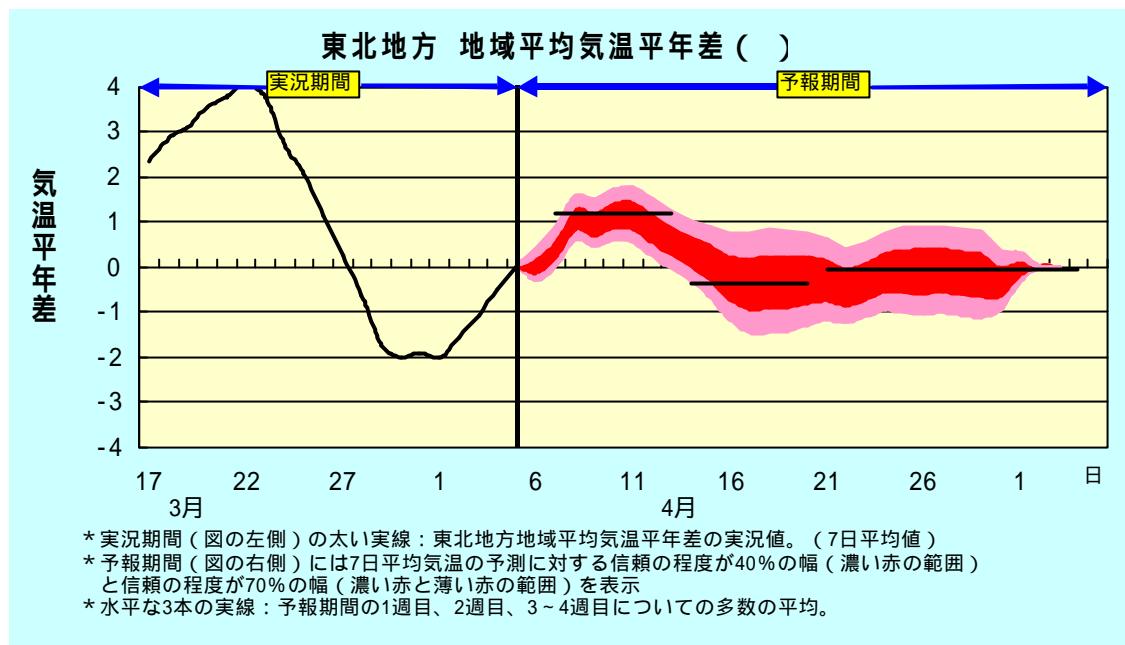
北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想
 (縦軸：気温平年差() 横軸：日付)
 発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1週目に平年を上回るが、2週目以降は概ね平年並程度で推移する。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

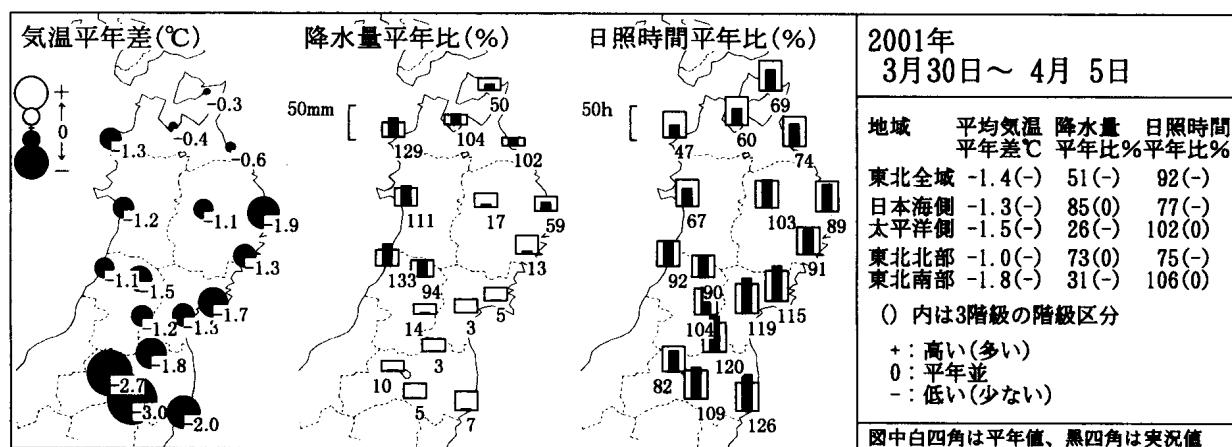
週別の気温は、1週目「高い」、2週目「平年並」、3~4週目「平年並」を予測している。なお、予報の信頼度は大きい。



4. 最近1週間（3月30日～4月5日）の天候の経過

低気圧や寒冷前線が周期的に通過し、通過後は寒気が入った。このため東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多くたが、東北太平洋側は低気圧や前線の影響は小さく晴れの日が多くた。

平均気温は、寒気の影響で東北地方で平年差-1.4と低かった。降水量は、東北日本海側で平年比85%と平年並、東北太平洋側で平年比26%と少なかった。日照時間は、東北日本海側で平年比77%と少なく、東北太平洋側で平年比102%と平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）